



少路小学校 創立50周年だより

第5号特大号 令和6年9月吉日

50周年記念事業の一環として、花壇の整備や図書室のリニューアルが行われました。子どもたちの学校生活がますます実り多いものとなるよう、心より願っております。この秋からは少路小のシンボルであるビッグランドの解体と建替えも予定されております。6月よりお願いしております寄付へのご協力も、おかげさまで8月末には**500万円を超える**ご支援をいただくことができました。皆さま、本当にありがとうございます。**9月末までの寄付額に応じて遊具のグレードが決まります。**

1979年度
卒業アルバム

2023年度
卒業アルバム

初代

二代目

三代目

安全性が高く、なおかつ子どもたちから募った夢の遊具のデザインをもとにしたデザインを設置するためには**1000万円が必要**です。さらなる皆さまからの温かい**ご支援をお願い申し上げます。**

新しい遊具の設置に向けて

6月

夢の遊具
デザイン募集

10月

新しい遊具
発注

11月

ビッグランド
解体

2月

お披露目
予定

ご寄付による遊具費・メンテナンス費集め

遊具費(~9月末)

メンテナンス費

ご寄付の
お願いです!

創ろう、
新たな
子どもたちの
憧れを

卒業生寄稿 ①

50年前の新1年生より

篠坂賢治さん 昭和54年度卒

昭和49年(1974年)4月、私は少路小の開校とともに入学しました。初の1年生は2学級55名、校舎は最初はかなり“ごちんまり”していました。学校の沿革をみると、なんと前年9月に着工して半年ちょっとで開校。新興住宅地の人口急増で開校は急務だったのでしょうか。児童のために間に合わせていただいた皆さまのご尽力などゆ知らず、私たち児童は“すべてが新品”であることにただただ喜んでいました。当時の緑丘は田畑も多く、虫取り・ザリガニ釣りは当たり前で、キジがよく鳴く“トトロの世界”が残っていました。

のどかなグラウンドの南西端に、昭和53年(1978年)3月、初代「アスレチック」が完成しました。このような大きな複合遊具はまだ目新しくみんなに大人気。6年生になるとクラス全員でアスレチックにのぼり、写真を撮影したクラスがありました。



昭和55年3月卒業生(第5期生)アスレチックでのクラス写真



2年生の筆者(昭和51年) 体育館横の通路にて学芸会の出番前



現在の筆者(令和6年8月)

私は4年生でしたが、木肌を撫で、ロープを握る感覚や、木とロープの“揺れ”や“きしみ”の不安定感にワクワクドキドキしたことが、今でも記憶に残っています。

そんな思い出の「アスレチック」が存続の危機にあること、そして今も「卒業アルバム」の定番撮影ポイントであることを最近知りました。子どもたちにとって「想像力を広げられる遊具」の存在はとても大切だと思います。初代も二代目も、建設に携わった大人たちは同じ思いだったかもしれません。三代目は私たちの出番です。「アスレチック/ビッグランド」で遊んだ皆さんの思い出が力となって集まり、次の世代に継がれていくことを願っています。

父がPTA会長をしていた創立間もない頃、この地域はまだ新しい住宅街で、住人たちがこれからこのまちを作っていくという時代でした。このまちを選んだひとたちとその子どもたちがこの地に愛着を持ち“ふるさと”だと思えるように、先生方、PTA、そして地域が一体となって、子どもが主体のお祭りを作りました。

その数年前、開校間もない校庭に、学校と地域のシンボルになるような大きな遊具を建ててあげようと当時の大人たちが奔走し、電力会社から木製電柱を、水道会社から土管を譲り受けてそれは立派なアスレチックを製作しました。



初代アスレチック 昭和53年建設

20年後「ビッグランド」という名前の2代目アスレチックが、当時のPTAにより再建されました。

更に時が経ち、私の息子が卒業する日、記念のバルーンリリースでふと目に留まったのは「ビッグランドは日本一の学校遊具！」というある児童のメッセージでした。形を変えつつ、長年地域の子どもたちの心を掴んできたビッグランド。

卒業式のあと、息子とビッグランドの最上階まで登り一緒に撮った写真は、彼にとって小学校生活最後の一日の記念でもあり、私自身この小学校で過ごし、この小学校で保護者として子ども達を見守り、この地域のことを改めて思う、とても大切な節目の記念になりました。



卒業記念のバルーンリリース 平成2年3月

卒業生寄稿 ②

親子三世代のビッグランド物語

小林(旧姓中藏)沙織さん 平成元年度卒

私たち、「50周年ビッグランド部会」です!

~PTA役員と保護者有志の計19名+αで活動中~



安西部会長

少路小が創立された頃は、まだこれから”まち”を作っていくフェーズで、ピカピカの建物等のインフラだけではなく「子どもたちがふるさと感じられるように」との大人たちの思いから、文化も同時に作っていく機運があったそうです。

先代のビッグランドである「アスレチック」も、当時の少路っ子たちの運動能力指標が低かったこと、そして何よりも他校に自慢できる大きな遊具を、という思いからPTAと小学校が手を取り合って手作りで設けられたと後に知りました。

このような活動を紡ぎながら築き上げられた小学校を中心とする地域団体コミュニティは、紛れもなく無形の資産として駆動し、まちは発展しました。今では文教地区として広く認められているまちの価値も、この無形資産と切っても切り離せない関係にあるように思います。

しかしながら、まちの価値を下支えしてきた地域コミュニティが、コロナを経て曲がり角にきています。地域団体は世代交代が滞り、中核を担ってきたPTAも役員の手がなくなり、活動継続が難しくなっています。新しい世代はコミュニティの存在を知る機会すら減ってしまいました。このままでは将来このまちが無味乾燥なものになりかねない、と危惧するのは大袈裟でしょうか。まちの系譜で

なぜ私たちは、ビッグランド再建にこれほどまで熱くなれるのか

令和6年度PTA会長 / 50周年実行副委員長 廣島満

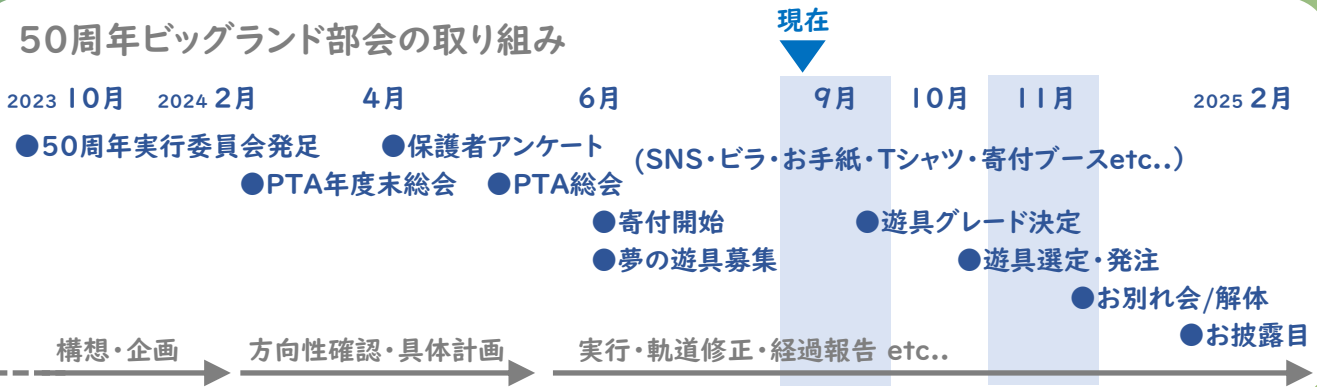
ある「地域コミュニティが子どもたちにとってふるさと感じられるような文化を作り、繋いでいく」という駆動原理は、これからの時代にはそぐわないのでしょうか。



私たちが向き合おうとしているのは、そのような正解の分からない問いであり、その象徴として、ビッグランドの再建があるように思います。単に大きな遊具を買い与えたい訳ではありません。これが歴代の少路っ子をつなぐかけがえのない文化であるからこそ、私たちが受け取るべきバトンではないかと感じるのです。40年以上続くビッグランド前での卒業アルバム写真撮影を、ここで止めてなるものですか!だからこそ、熱くなれる。

ビッグランド再建プロジェクト、地域活動、そしてPTA活動が、50周年を機に一人でも多くの方に知られることとなり、できればその輪が広がることを願っています。組織や活動は時代に合わせて変わっていいと思います。ただこのまちに住む私たちが自らの手で文化を守り、創っていく、効率化ばかりを追うのではなく、人との交わりを大切にして、感じ、学ぶ。そんな息づかいの感じられる”まち”を、残していこうではありませんか。

50周年ビッグランド部会の取り組み



三代目 ビッグランド であそびたい



A社



B社

新遊具のデザイン3案

- ・大型で安全な遊具
- ・ユニバーサルデザイン
- ・クラス写真もOK!



C社

こんな遊具が
あったらいいな♪



少路っ子による
夢の遊具のイラスト (195枚)

- ※ 寄付金額 1,000万円を達成した場合に設置可能なグレードのイメージ図となります。
- ※ 集まった寄付金額により遊具のグレード(大きさや機能)が変わります。9月末にグレードを決定します。
- ※ 10月末までに3社から1社に絞り、遊具を発注します。
- ※ デザイン案やスケジュールは変わる場合があります。

9月末までに1,000万円集まれば上記のグレードに手が届きます! (現在約500万円)
9月末までのご寄付へのご協力をよろしくお願いいたします

①現金でのご寄付・・・以下の寄付募集ブースへお越しくださいませ

9/12(木) 13:00-16:00 授業参観/学級懇談会 (PTA室前)
 9/14(土) 8:30-12:00 敬老の集い (少路小学校体育館)
 9/14(土) 18:00-20:00 島熊山キャンドルナイト (豊中不動尊)

②銀行振込・・・池田泉州銀行 北豊中支店 普通 2885435

口座名義「豊中市立少路小学校PTA」※手数料を差し引いてお振込みください

③寄付システム経由・・・クレジットカードがご利用いただけます

※返礼品ご希望の方は、現金/銀行振込の場合も寄付システムへの登録が必須となります



寄付システムはこちら
 寄付進捗・活動報告も
 ぜひご覧ください!



PTA Instagram
 ・新図書室、花壇
 ・PTA活動の様子



PTA Youtube
 “ビッグランド物語”
 最新話を公開!

お問い合わせ：shoji.donation@gmail.com